「自分で考え、正しく判断し、最後までやり抜く生徒を目指す」　第16話

小値賀物語

令和3年1月14日発行

小値賀町立小値賀中学校　校長　池田英二

①求めて学ぶ生徒　②心を高める生徒　③たくましい生徒

早いもので３学期が始まり１週間が経とうとしています。先日は、小値賀では珍しい雪が積もり、雪ダルマの姿もあちこちに見られ、心が和みました。連日、本格的な寒さが続いておりますが、皆様方はいかがお過ごしでしょうか？どうぞご自愛ください。

また昨日は、福岡県でも新型コロナウィルス感染症の緊急事態宣言が出されました。３学期も小値賀中職員一同で、十分なコロナ対策を行いながら生徒一人一人のために、本校の教育活動に邁進してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、今後とも学校へのご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

今回の小値賀物語では、３学期の始業式での学級生徒代表の言葉の紹介と全校書初めの様子をお知らせいたします。

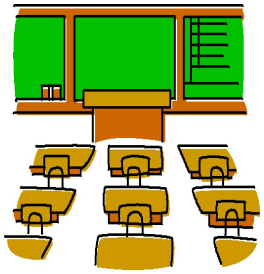
３学期始業式の言葉（１月８日金曜日）

○１年生　横尾　華子

私の３学期の目標は、２つあります。１つ目は、学力の向上です。私は、日頃から宿題やテストに向けての復習などに、直前になってから慌てて取り組み、レインボーノートの内容が雑になってしまったり、学習内容を十分に理解できていなかったりすることが多くありました。３学期からは、取りかかりを早くして理解につながる学習にしたいです。２つ目は、心のこもったあいさつをすることです。あいさつについては、小学校の頃から繰り返し言われていて、自分ではできていると思っていました。でも２学期の終業式で校長先生からあいさつについてのお話があった時、「私のあいさつには心がこもっていたかなあ」と思いました。あいさつをしなければならないという気持ちだけでして、相手の気持ちまで考えていなかったなと思います。３学期は、自分がされて嬉しいあいさつをしたいと思います。３学期は、１年生最後の学期なので、この２つの目標をしっかり達成できる学期にしたいです。

○２年生　笹山　心春

私は、３学期頑張りたいことが２つあります。１つ目は、発表です。私は、発表をすることが苦手です。だから３学期からは、１つの授業に１回以上手を挙げることを意識し、実践できるよう頑張りたいと思います。２つ目は忘れ物を減らすことです。私は、忘れ物をよくしてしまいます。３学期は、これを直すために生活ノートに次の日の時間割と持っていく物をきちんと記入し、前の日からしっかりと準備をしていきます。最後に、勉強です。私は、ワークを終わらせるのに精一杯で、テスト勉強があまりできていません。これからはワークに計画的に取り組み、テスト勉強の時間を増やしたいです。次に学級全体についてです。学級の目標は、あいさつです。学校内ではできているけど地域でのあいさつが良くないと２学期に言われたので、学校であいさつの質をさらに高めて、地域の人たちにもしっかりとあいさつのできる学年になりたいです。私たち２年生は、常にあいさつを意識して過ごしてきました。また、２学期は、学習発表会や野外活動を通して協力することの大切さや協力することで大きな力を発揮できることを学んだので３学期もクラスみんなで協力をしていきたいです。２年生の３学期は、３年生になる準備の学期になるので、生活面と勉強面を今まで以上に良くしていきたいです。



○３年生　濵田　愛羅

いよいよ３学期が始まりました。私たち３年生にとっては最後の学期であり、中学校３年間の総まとめがやってきたことにもなります。この１年間、受験生としての意識をもって生活してきましたが、いよいよ受験が迫ってきました。私たちは、早い人で１週間後に、１月中には５人の人が受験に臨みます。そして、２か月後には、１４人全員が受験（検）を終えることになります。冬休み中に、精一杯勉強してきたので、これから取り組む各教科の受験（検）対策も頑張っていきます。みんなで第一志望校に合格できるように頑張ります。

そして３学期には、大切な行事がたくさんあります。卒業式では、本番までの練習で歌や動きをしっかりして、保護者に安心してもらえるように頑張ります。卒業まで残りわずかな日数しかありません。３年生の中には、小値賀以外の高校を第一志望校にしている人もいます。１４名一緒に過ごすことができるのも卒業式までということになります。長い人で１４年間、短い人で半年間と、共に過ごした時間に違いはありますが、１日１日を大切に過ごしていき、１４人の絆を深めたいです。そして、学級目標の「ドリームキャッチャー」を１４人全員が実現させたいです。

全校書初め（１月１３日水曜日）

「新年にあたり、抱負となる言葉を自らの書にあらわすことで、決意を新たにしすること」「自覚を深めながら、毛筆を用いて、字形を整えながら、文字の大きさ、配列・配置に気をつけて書くことに慣れ親しむこと」を目的にして、全校書初めを実施しました。生徒は、冬休み中に「新年の抱負」を表す言葉を考え、今回の書初めに臨みました。例年、全校生徒が一堂に会し、多目的室で実施していましたが、本年度は、新型コロナウィルス感染症の予防対策として、三密を少しでも避けられるように、多目的室と会議室の２か所で実施しました。生徒が「新年の抱負」を一生懸命書いている姿を見て、私も自分の気持ちを新たにすることができました。

【ちょっといい話】「つらくなったら空を見てね」

小説家で詩人の寮美千子（りょう　みちこ）さんの話。彼女は奈良少年刑務所の明治の煉瓦建築が見たかった。それで、一般公開日に出かけた。その日、奈良少年刑務所から「受刑者に童話や詩を使った教室を開きたいので講師になってほしい」との依頼があった。

依頼を受けたある日、詩の教室で少年が『くも』という題で詩を書いた。「空が青いから白をえらんだのです」と一行の詩。その詩を「素晴らしい詩です。読んでください」と寮さんが話すと、薬物中毒の後遺症があるその少年がたどたどしく読んだ。

読み終わると、刑務所の受講者全員が拍手。生まれて初めてほめられた少年は、嬉しさのあまり「話したいことがあります。僕のお母さんは今年で七回忌です。亡くなる前に『つらくなったら空を見てね。私はそこにいるから』と話しました」と言う。

感心して聞いていると、別の受講生が「僕はお母さんを知りません。この詩から、僕もお母さんに会えるような気がします」と泣き出した。やがて、全員が慰めるという感動する場面に出会ったという。